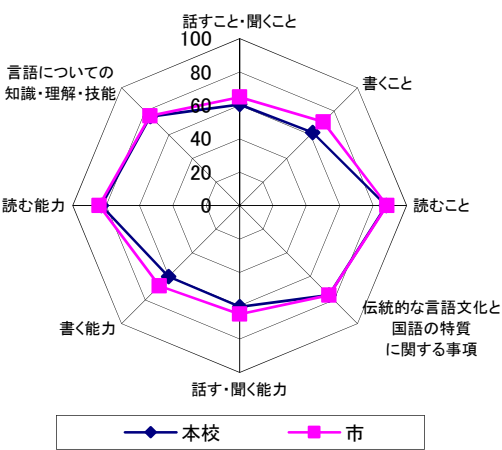


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	60.6	65.0	62.9
	書くこと	62.0	70.9	71.3
	読むこと	87.8	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.8	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	60.6	65.0	62.9
	書く能力	60.0	68.0	68.0
	読む能力	82.8	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	75.6	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

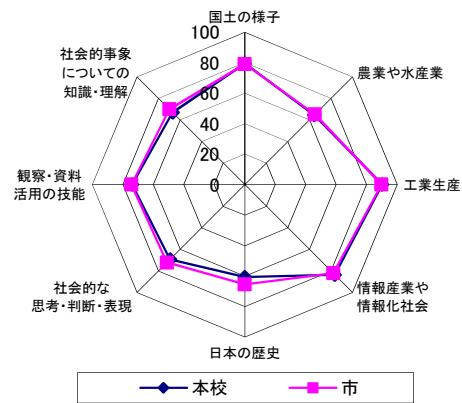
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて4.4ポイント低い。 ○司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができている。授業の中で、話し合う活動を多く取り入れてきた成果であると考えられる。 ●話し手の意図を考えながら、内容を聞くことに課題が見られる。	・グループでの話し合いやクラス全体での話し合いを使い分けながら、目的意識をもたせ聞く活動を取り入れていく。また、国語の授業だけでなく、学級活動の時間も活用しながら、聞く活動に慣れさせる。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて8.9ポイント低い。 ●資料の内容を読み取って、文書に書き表したり、自分の意見とその理由を書いたりすることに課題が見られる。	・目的や相手をしっかりと意識させながら書く活動を取り入れていく。また、授業だけでなく課題を明確にした日記などの書く活動を取り入れることで、書くことに慣れさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて0.6ポイント低い。 ○物語を読み、場面の描写と登場人物の心情を読み取ることができている。叙述に沿って正確に読み取るように指導してきたことの成果であると考えられる。 ●説明文を読み、内容を的確に読み取ること課題が見られる。	・叙述に沿った読み取りや、根拠を明らかにした読み取りができるように指導を続けていく。また、指示語が何を表しているのかや接続語の意味などを確認していく機会を増やしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて同じである。 ○熟語の構成や国語辞典の使い方を理解している。授業の中で、分からない言葉などを国語辞典を使い調べさせるということを取り入れてきた成果であると考えられる。 ●文の構成について理解することや第5学年配当漢字を書くことに課題が見られる。	・主語や述語などの文の構成を意識させながら、文章を書かせたり読ませたりする活動を意図的に取り入れていく。 ・漢字練習の効果を高めるため、部首や熟語などを考えさせ、関心を高めながら練習できるようにする。また、確実な定着を図るためこまめな小テストを実施する。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.5	79.1	74.9
	農業や水産業	64.5	65.1	63.7
	工業生産	90.1	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	83.6	82.2	73.1
	日本の歴史	60.6	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	69.4	72.2	69.0
	観察・資料活用・技能	74.0	74.3	69.2
	社会的な事象についての知識・理解	67.0	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

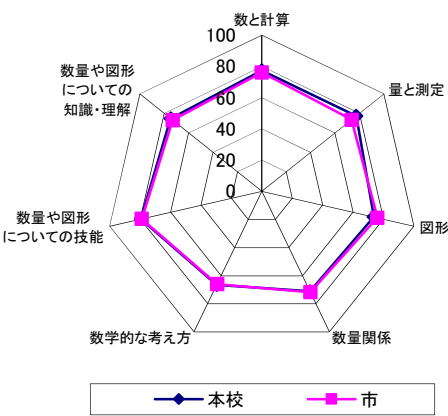
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は79.5%であり、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ●平野の名称の理解については、正答率が55.3%であり、市の平均を下回っている。	・日本の国土についての理解が不足している。学習内容の確実な定着に向け、産業や自然に絡めて実感を伴って理解させるなど、折に触れ地図に親しませていきたい。
農業や水産業	平均正答率は64.5%であり、市の平均を0.6ポイント下回っている。 ○米作りの問題点について資料を読み取る設問においては、正答率が89.5%であり、市の平均を上回っている。日本人の主食である米を作る農業の大切さについて考えさせた成果と考えられる。 ●米作りの作業行程を問う設問では、正答率が51.3%であり、市の平均を下回っている。	・資料から読み取れるいろいろなことを関連付けて、複雑な社会事象を理解できるよう、資料を自分なりに読み取り、考察を書く活動を取り入れていく。
工業生産	平均正答率は90.1%であり、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ●消費者の多様な需要にこたえ、優れた製品を生産するための工夫や努力について、資料から読み取る設問では、正答率が88.2%であり、市の平均を下回っている。	・知識と知識をつなげて考える力を伸ばすため、与えられた言葉を使って事象を説明する活動を取り入れる。
情報産業や情報化社会	平均正答率は83.6%であり、市の平均を1.4ポイント上回っている。 ●医療での情報ネットワークの利便性について、資料を読み取って考える設問では、正答率が77.6%で、市の平均より下回っている。	・知識のみを教え込む授業ではなく、与えられた資料やグラフ、既習の知識を使い、予想されることや考えられること、自分の考えを書く学習活動を取り入れていく。
日本の歴史	平均正答率は60.6%であり、市の平均を4.8ポイント下回っている。 ○鎌倉時代、室町時代の設問に関しては、正答率が市の平均を上回っている。人物や出来事について、学習したことを自分なりに整理させたことが効果的であったと思われる。 ●江戸時代、明治時代の設問に関しては、正答率が市の平均を下回っている。	・今後は、歴史の変遷や歴史上の人物の行ったことなどを、時代の流れとともに連続的にとらえられるように、時代背景や歴史的な事象が起こった要因などをしっかりおさえながら学習を進めていく。また、進んで歴史に関する図書や伝記を読むようにさせていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.3	76.2	72.9
	量と測定	77.4	73.6	70.6
	図形	73.6	76.0	72.1
	数量関係	71.2	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	66.5	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	79.5	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	74.6	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

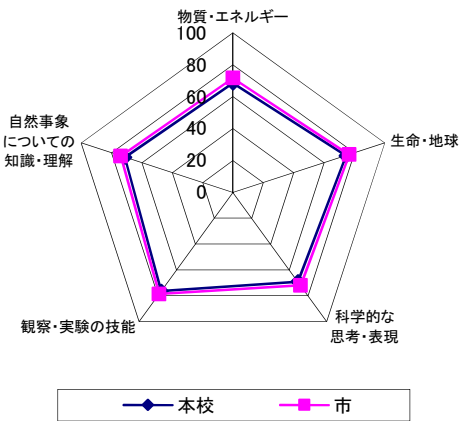
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて1.1ポイント高い。 ○小数の除法の文章問題に合った図や式を選ぶ設問において、市の平均を上回っている。問題を考える際、式だけでなく、図や数直線などを使って考えさせるようにしていた成果であると考えられる。 ●小数第一位×小数第一位の計算や分母どうしをかける通分が必要な分数の計算、問題場面のわけを説明する設問においては、市の平均を下回っている。	・小数のたし算とかけ算での答えの小数点のうち方が混同してしまっていたり、単純な計算ミスをしたりしていると考えられるので、定着を図るために計算ドリルや計算プリントなどを活用し、繰り返し復習させていきたい。 ・正しく計算できるよう、その式が表している場面を考えさせたり、その式を立てた理由を説明させたりする活動を今後も大切にしていきたい。
量と測定	平均正答率は、市の平均と比べて3.8ポイント高い。 ○速さと道のりをもとに、時間を求める式を選ぶ設問においては、市の平均を11.6ポイントも上回っている。単元によって習熟度別で児童に合った進度での学習を行ってきた成果であると思われる。 ●直方体を組み合わせた形の体積を求める設問では、正答率が3.1ポイント下回っている。	・今まで学習したことを使って、考えて解く問題が不得意であると考えられる。基礎的な問題だけでなく、応用問題にも多くふれさせていきたい。また、応用問題に取り組みさせるにあたり、ペア学習やグループ学習でお互いに考えを伝え合ったり、教え合ったりする活動を取り入れ、様々な解き方にふれさせていきたい。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて2.4ポイント下回っている。 ○線対称な図形について、対称の軸の本数を答える設問において、市の平均を8.5ポイント上回っている。図形の学習において、図や具体物を使って考えさせてきた成果であると考えられる。 ●正六角形の作図方法から、正三角形や正六角形の1つの内角の大きさを求めたり、平行四辺形について、正しく説明した文を選ぶ設問においては、市の平均を下回っている。	・正多角形の性質や正六角形がもつ性質等、もう一度確認した上で作図をさせたり、内角を求めたりすることで実感を持った理解が図れるようにしたい。 ・線対称と点対称の違いをもう一度しっかり認識させ、具体物を活用して線対称・点対称な図形の対応する点や辺を理解できるようにする。
数量関係	平均正答率は、市の平均と比べて0.6ポイント下回っている。 ○2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の値を求めたり、2つの分量の割合から足りない材料の量を求めたりする設問において、市の平均を上回っている。単元によって習熟度別での学習を行ってきた成果であると思われる。 ●文字を使った式が表す場面を選んだり、比例の関係を、xとyを使って式に表す設問においては、平均を下回っている。	・比例や反比例の学習において、文字を使って数量の関係を式に表すことが不得意であると考えられる。変化していく数量の表の見方をもう一度確認し、横に見て一方がどれだけ増えたときに、もう一方がどのように変化するかを考えさせたり、縦に見て1つ1つの数量の関係を式に表すことで決まった数を求めさせたりするようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.5	71.6	67.4
	生命・地球	74.5	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	69.2	72.1	68.8
	観察・実験の技能	76.5	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	71.2	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は68.5%で、市平均より3.1ポイント下回っている。 ○水溶液を熱したときに残った個体から、どの水溶液かを指摘する問題や、食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化を問う問題では、正答率が市の平均を上回っていた。実験の結果を考察する活動をしっかりと行った成果と思われる。 ●電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べるための実験について問う問題に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・電磁石の単元の学習における知識の定着を図るため、当該学年以前の電気に関する学習の復習から学習を始めるようにする。 ・正しく実験ができる技能の向上を図るために、理科の学習で実験をする際に、比較して検証をするためには、条件を変えるものと変えないものなどを確認したり、実験の結果とそこから分かったことをおさえたりしていく。
生命・地球	平均正答率は74.5%で、市平均より2.1ポイント下回っている。 ○太陽と月の位置関係から、月の形の見え方の違いを指摘する問題では、正答率が市の平均を上回っている。教材を用い、分かりやすく提示したり、児童が自分で確認できるようにさせたことが有効であったと思われる。 ●だ液の働きを問う問題の正答率が低く、課題が見られる。	・実際にだ液を使って実験をすることにより、実感を伴った理解につなげていく。また、実験だけでなく、視聴覚資料なども効果的に活用することにより、理解を確かなものにしていく。